

1. 設置趣旨

事故分析に基づき、交通事故の防止、事故数減少に資する自動車安全技術の開発支援、普及活動について検討する。

2. 構成員

◆ 民間企業

アイシン精機(株)、(株)アドヴィックス、(株)デンソー、トヨタ自動車(株)、
三菱自動車工業(株)

◆ 行政

愛知県産業振興課、愛知県警交通総務課

3. 検討事項

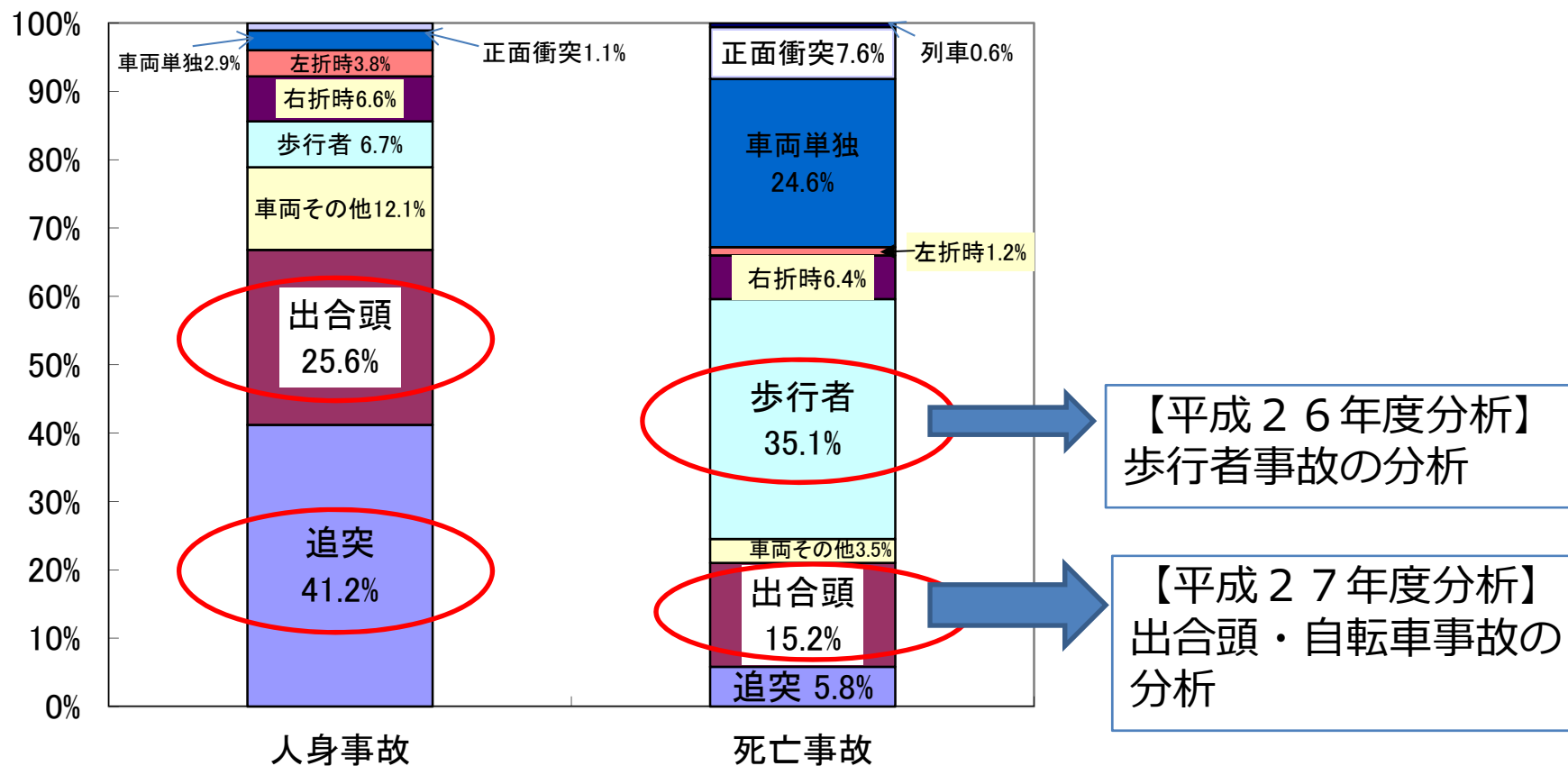
- (1) 交通事故状況の多角的な分析、調査
- (2) 事故分析に基づく、開発支援、普及が必要な自動車安全技術の検討
- (3) 事故分析に基づく、交通安全対策の検討
- (4) その他WGの活動に資すること

事故分析WGについて

4. 本県の交通事故死傷者数の軽減に向けた課題

第3回PT会議（H26.3月）において、課題の提示

平成25年 人身事故、死亡事故の事故類型別割合



平成27年度事故分析のまとめ

1. 愛知県の出合頭・自転車事故カルテの分析(まとめ)

- 見通しの悪い交差点における自転車の飛び出しによる衝突が多い。
- 愛知県では、四輪車からみて交差点奥の横断歩道右側から出てくる自転車との衝突が多い。
- 右左折時のトラックとの衝突が多い。

2. 期待される四輪車の技術・対策

- 自転車乗員の検知が可能な自動ブレーキ
- トラックの右左折時の巻き込み警報センサー
- 自転車乗員
 - ・ヘルメット着用
 - ・法令遵守（一時不停止など）のための行政指導

平成27年度事故分析結果を受けて

WGメンバーの意見

1. データ分析より分かる課題

- 自動車 見通しの悪い交差点における、自転車等の検知
- 人（自転車） 法令遵守の啓蒙、ヘルメット装着の励行
- 道路環境 見通しの悪い交差点における、減速喚起の措置

2. 有効な自動車安全技術(実用化されている技術)

○衝突被害軽減ブレーキ

警報、ブレーキアシスト、自動ブレーキにより、衝突時の被害軽減を図る。

○路車間通信システム

見通し外の車や歩行者の存在を検知し、ドライバーに知らせる。



平成27年度事故分析結果を受けて

3. 有効な自動車安全技術 (今後開発すべき技術・開発の方向性)

- 路車間、車車間通信を活用した運転支援システムの適用拡大
(理由) 見通しの悪い交差点において、死角の自転車等を検知するため。
- 衝突被害軽減システム(自動ブレーキ)の軽減範囲の拡大
(理由) ヒューマンエラーをシステムによりカバーする。

4. 平成28年度に取り組むテーマについて

- 平成27年度の分析では、事故カルテを基に分析を行った。
- 今後は事故時の詳細な情報得るべく、映像資料(視覚情報)を基に分析を行っていくことはできないか。
→ドライブレコーダーの映像を活用した事故分析の実施。

平成28年度の事故分析

1. 今年度の取組状況

- 愛知県タクシー協会・名古屋タクシー協会の協力のもと、タクシーのドライブレコーダーの映像を提供してもらう。

提供データ：対自転車・対歩行者の衝突事故を中心とした事故映像（約400件）

- 7月1日開催の第1回会議にて、今年度の分析内容について検討。
- 今年度も引き続き、名古屋大学水野教授にドライブレコーダーの映像を用いた分析を依頼。

平成28年度の事故分析

ドライブレコーダーの映像を活用した事故分析



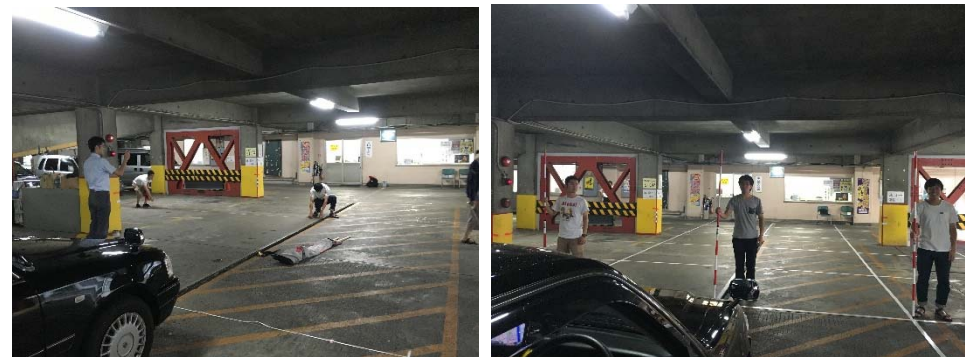
ドライブレコーダーの映像イメージ

分析方法

- ・衝突前の運転者、自転車乗員、歩行者の行動確認
- ・事故形態の分類分け
- ・タクシーと対象物との相対位置の計算
- ・シミュレーションによる事故再現 等

映像から分かる情報

- ・車両前方映像
- ・車内映像
- ・事故発生場所、時間
- ・車両速度 等

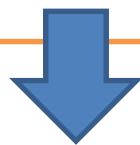


相対位置計算のための調査の様子

平成28年度の事故分析

2. 今年度の分析内容(テーマ)について

第1回会議の結果及びメンバーからの分析要望を踏まえ、その内容を決定



- 歩行者/自転車の行動予測（気付き・回避行動）
- ドライバーの回避行動（運転手側の気付き・回避行動）
- 相対位置情報 等

→上記について、現在、名古屋大学で分析中。
第2回会議で中間報告の予定。

平成28年度のスケジュール

